



▶ 森林管理の現状

～管理不足となる3つの要因～

経営価値の低下

現在の木材価格は全盛期の約3分の1と大きく落ち込んでいます。そのため、所有者は自分の森林の価値を見出すことが難しくなっています。

土地の所有者が不明

森林は親から子へと代々受け継がれ守られていきますが、相続されていないなどの理由により所有者が不明な森林が増加しています。

土地の境界が不明

自分が森林を持っていることを知っていても、どこにあるのかが分からない所有者が増えています。



上記3つの要因などにより、管理(植林、草刈、間伐など)が不足している森林が多くなっています。

このまま管理不足が続くと、森林の持つ大切な役割が十分に発揮できず、私たちだけでなく生き物、環境全体に深刻な影響を与えてしまう恐れもあります。

深刻な状況になる前に、森林の適切な管理が欠かせません。

▶ 健全な森林を次の世代へ

～森林経営管理制度～

森林経営管理制度の概要

これまで



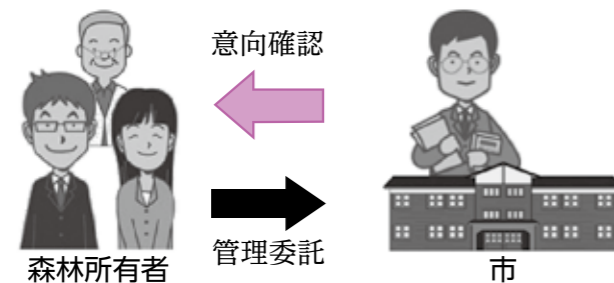
これまでの所有者は
・自ら管理する
・民間業者に委託する
どちらかで森林を管理してきましたが、どちらもできない場合は管理不足となってしまいました。

+

新たな管理方法の追加

これから

昨年4月から始まったこの制度では、自分では管理が難しい森林を『市が仲介役となり管理の担い手を探す』ことができるようになりました。



この制度により管理不足の森林を無くし、大切な役割を十分に発揮できる森林づくりを行っていきます。

森林所有者に管理の意向調査をします



今年度以降15年間をめぐり、所有者へ

- ①自分で管理する
- ②市に委託する

どちらで森林の管理を希望するかを調査します。対象は右の3つの項目に該当する地区です。

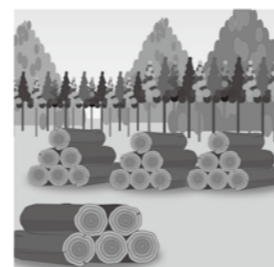
意向調査の対象地区

- ①個人などの所有する人工林の地区
- ②森林経営計画を策定していない地区
- ③過去10年間に整備の実績がない地区

▶ 森林の持つ大切な役割

～安全・快適な暮らし～

木材は暮らしを支えます



木材は「木の伐採→新しい木の植え付け→手入れ」のサイクルによって生み出され、燃料やトイレトーパーなどの紙製品、住宅、家具などの材料として活用される、生活に欠かすことができない重要な資源です。

水をためて洪水を防ぎます



土だけの地面と比べて、森林の地面はさまざまな生き物や微生物によってスポンジのようになっています。水を蓄える力が約3倍もあります。

このため、短時間で雨がたくさん降ったときでも、いったん雨水を土にため込んでゆっくり河川に流し洪水を防ぎます。また浄化された水は、人々の暮らしに必要な生活水になります。

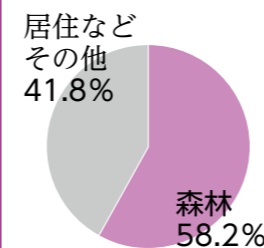
土砂災害を防ぎます



樹木の根が深く、広く発達することによって、急な斜面であっても土をつなぎ止め、落石や土砂流出などの土砂災害を防いでいます。

▶ 市の森林の現状

～市面積の40%が管理の必要な森林～



藤岡市の土地面積のうち約60%が森林です。その森林の約70%、藤岡市の土地面積のうち約40%が管理の必要な森林(人工林)です。

	面積 (ha)	割合 (%)
森林	10,486	58.2
その他	7,543	41.8
合計	18,029	100.0

森林のうち
樹林地



	面積 (ha)	割合 (%)
人工林	7,184	70.0
天然林	3,075	30.0
合計	10,259	100.0